

1640 | 美術教育法Ⅰ

2 単位（通信授業 2 単位）

三澤一実教授

授業の概要と目標

造形美術教育の実践者として身に付けるべき知識や経験、資質は、広範囲であり多種多様である。また、それらの基礎として子ども達の造形活動をさまざまな視点から観察する姿勢と、子ども達の作品の中にある優れた造形性や教育的意義を発見できる視点を持つことがまず重要である。子どものどこにどのような光を当てればよいのか、そこからどのような教育的な展望を持つことができるのかという問題は、造形美術教育の入門でもあり、永遠のテーマでもある。ここでは、現在の具体的な実践事例を含む造形美術教育の諸相を概括し、その基本理念の考察へと学習を進め、造形美術教育者としての視点育成を目的とする。

課題の概要

○通信授業課題 1

身近な幼児・児童（3歳～10歳）の年齢の違う描画作品2点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること。実際にその子どもが描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、作品の出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

昨今の初等教育における教育問題をひとつ取り上げ、ハーバード・リードの教育理念や造形表現における発達段階、小学校学習指導要領などと対比し、造形美術教育の視点から論評すること。

新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、注目すべき教育問題を取り上げること。その情報の出典を明示すること。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書『美術教育資料研究』第1章と第2章、同じく教科書『美術教育の題材開発』第1章を中心として学習するとともに、教育問題についての情報を集め考察し、造形美術教育者としての視点を育成する。

- ・『美術教育資料研究』第1章 美術教育法の目的と意義
- ・『美術教育資料研究』第2章 子ども達の造形表現
- ・『美術教育の題材開発』第1章 美術科の特徴と今日的課題
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』／図画工作科の考え方についての理解
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』／美術科の考え方についての理解
- ・情報収集／新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、昨今の教育問題についての見識を広める

成績評価の方法

○科目試験

上記授業内容から出題する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 教職課程（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

[備考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2008年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2008年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）

その他

参考図書：ハーバード・リード『芸術による教育』（フィルムアート社 2001年）

大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）